

平成28年6月14日

平成28年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第1号） 縞葉枯病（技術情報第1号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 少 並 並 並 並 並	並 少 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） ハダニ類	少 並 やや多	やや少 やや多 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病（防除情報第4号） 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや多 並 やや少 並 やや多	やや多 並 やや少 並 やや多
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 並 並	並 並 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 並	並 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや多 並 並	やや多 並 並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 やや少 並 やや多 やや多 並 やや多	やや多 並 並 やや多 やや多 並 やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率0.0%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 6月5日以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が多いので注意する。

イ 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	●	●	—	—	4	—	—	—	—	4
6月6日	●	●	●	4	4	1	—	1	1	—
6月7日	●	—	—	—	—	1	—	—	—	?
6月8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月12日	●	—	●	—	—	—	—	—	—	●
6月13日	●	—	●	—	—	—	—	●	●	●

発生指標	?:判定 不能	—:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率0.0%、発病株率0.0%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成28年6月14日付け**病害虫発生予察技術情報第1号**による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地（2地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0%）であった。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は53.7%（21.1%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は3.7頭（1.9頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

ア セジロウンカは5月3日にネットトラップ（諫早市）で、トビイロウンカは、6月8日に予察灯（諫早市、南島原市）で初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は31.7%（32.2%）であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、セジロウンカの株あたり虫数は0.6頭（1.4頭）であった。トビイロウンカは発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

ア 6月9日にフェロモントラップ（諫早市）で誘殺を初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生は認めなかった（早期水稲：食害株率0.0%、10㎡当たり成虫数0.0頭）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、食害株、成虫及び幼虫の発生は認めなかった（食害株率：0.03%、成虫の10㎡当たり虫数0.0頭）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	やや少
------	-----

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率7.6%、発生圃場率41.5%）。

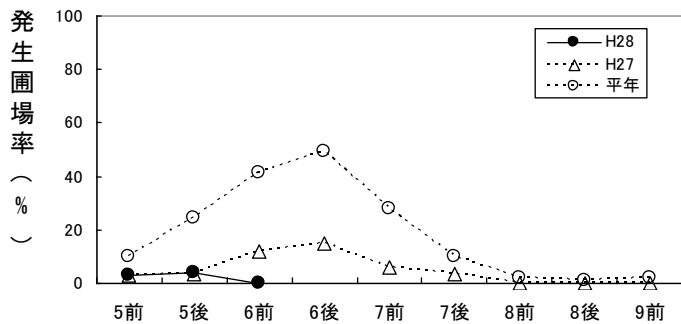


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

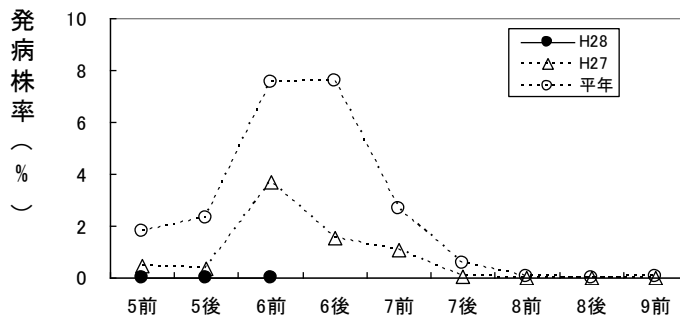


図 うどんこ病 発病株率の推移

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量も平年より多い見込みのため、本病の感染に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床では雨よけを行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は6.9%(2.4%)、発生圃場率は36.4%(26.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃での持込みを避けるため、定植までの防除対策を徹底する。

イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

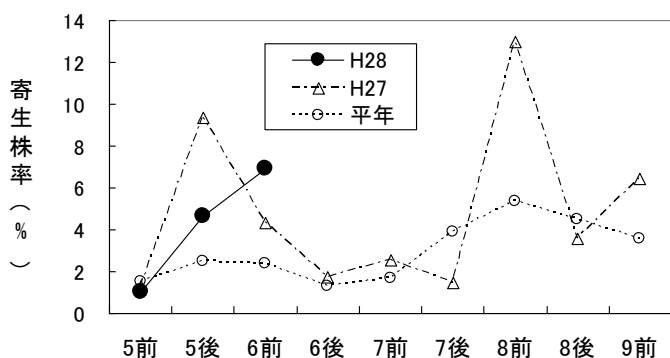


図1 ハダニ類 寄生株率の推移

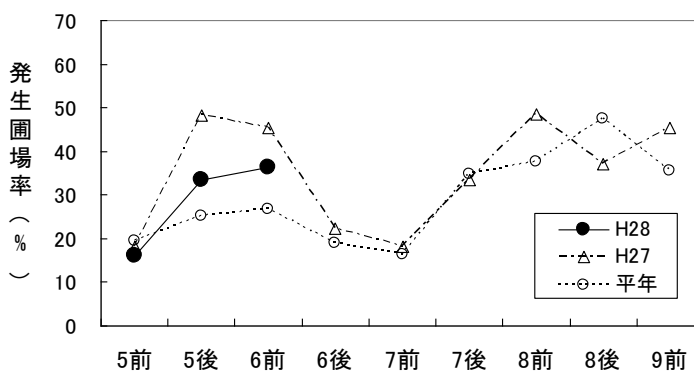


図2 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は80.5頭（過去9年平均22.9頭）、発生圃場率は75.0%（過去9年平均74.2%）で、一部多発圃場が見られた。

かんきつ

1. かいよう病

平成28年6月14日付け**病害虫防除情報第4号**による。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は2.7%（6.0%）、発生圃場率は33.3%（43.8%）であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（被害果率0.0%、発生圃場率0.0%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市小船越町）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。

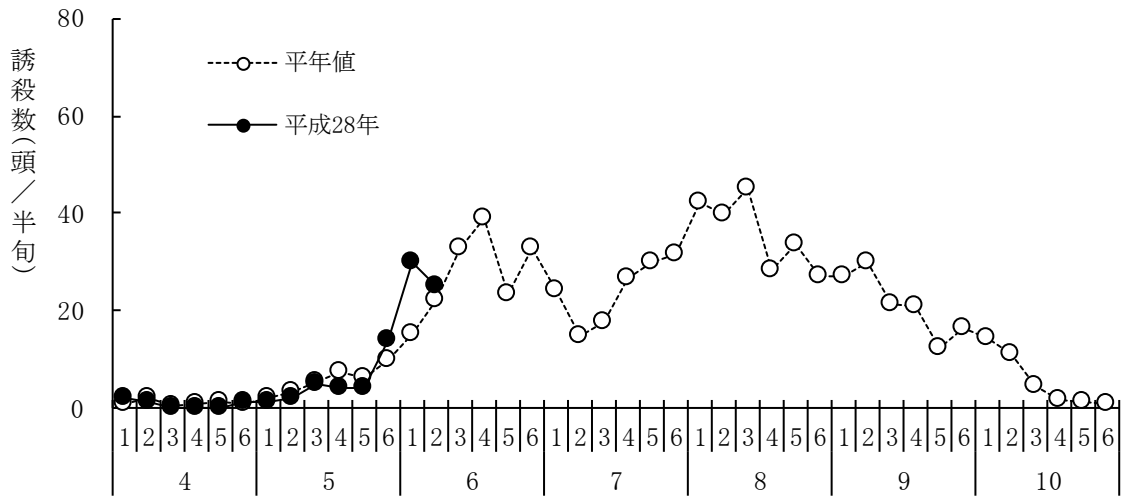


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は下表のとおりである。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第2世代	5/30	5/31	6/7	5/31	6/11
〃 (前年)	6/4	6/4	6/13	6/5	6/17
〃 (平年)	6/9	6/16	6/16	6/11	6/22
第3世代	6/22	6/24	7/1	6/24	7/6
〃 (前年)	6/30	6/29	7/10	7/1	7/13
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
第4世代	7/12	7/14	7/21	7/13	7/25
〃 (前年)	7/20	7/20	7/30	7/22	8/3
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2016年6月12日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生果率は0.7%(0.0%)、発生圃場率は5.6%(0.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した初発生の予測日ならびに各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生育予測日	5/4	5/6	5/5	5/4	5/5	5/5	5/7	5/7	5/5	5/7	5/9	5/8
前年予測日	5/6	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/9	5/7	5/9	5/11	5/8
IGR剤防除日	5/29	5/31	5/30	5/29	5/30	5/30	6/1	6/1	5/30	6/1	6/3	6/2
有機リン剤防除日	6/13	6/15	6/14	6/13	6/14	6/14	6/16	6/16	6/14	6/16	6/18	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生育予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日～4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.8%(0.8%)、発生圃場率は40.0%(40.0%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は5.2%(7.3%)、発生圃場率は80.0%(77.5%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

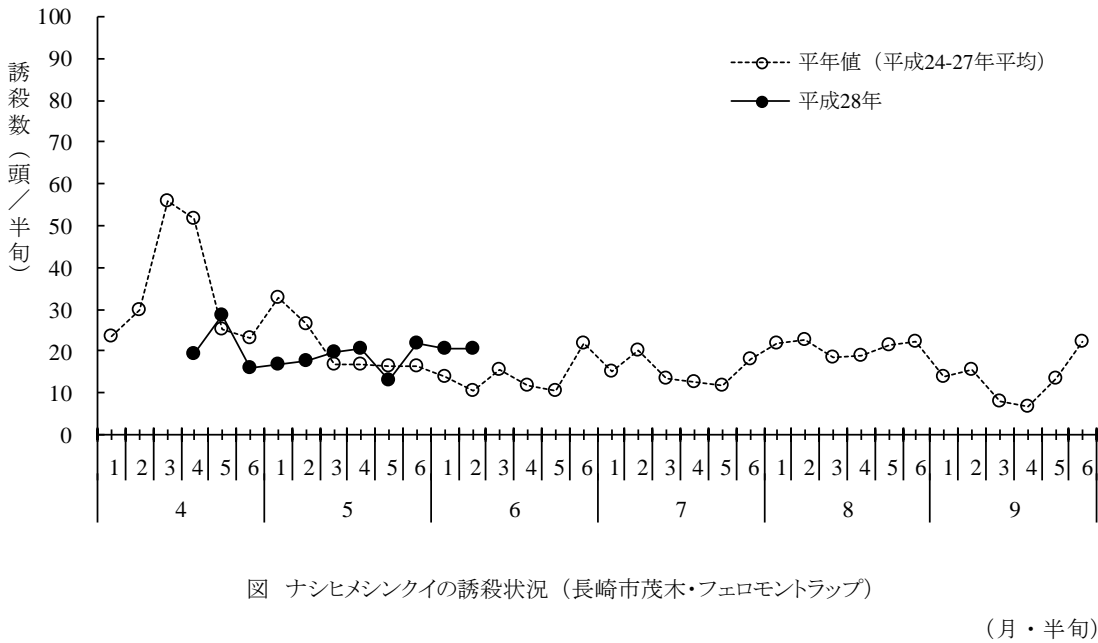
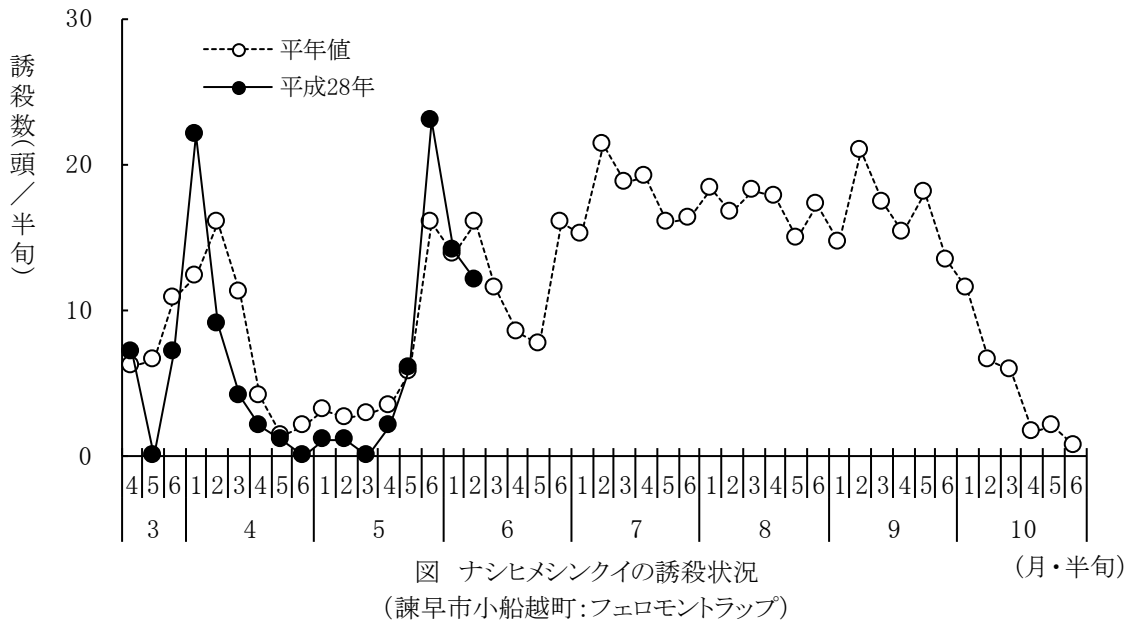
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率2.5%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している(図)。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.1%(0.7%)、発生圃場率は33.3%(40.5%)であった。また果実では、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率8.8%)。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市小船越町）での誘殺量は平年並で推移している（びわの項参照）。

ぶどう

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.3%（0.0%）、発生圃場率は8.3%（4.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌の発生に注意し、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、葉では、発病葉率は1.0%（0.4%）、発生圃場率は33.3%（12.5%）、また果房では、発病果房率は3.3%（0.0%）、発生圃場率は25.0%（4.2%）であり、一部多発圃場が見られた。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（被害果房率0.4%、発生圃場率9.4%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（かんきつの項参照）。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、各地域で平年と比べやや少～平年並で推移した（下図）。

イ 6月上旬の巡回調査の結果、かんきつ、なしおよびびわ圃場への飛来を認めなかった。

ウ 病害虫防除員の報告ではかんきつ、なしおよびびわ圃場への飛来を認めなかった。

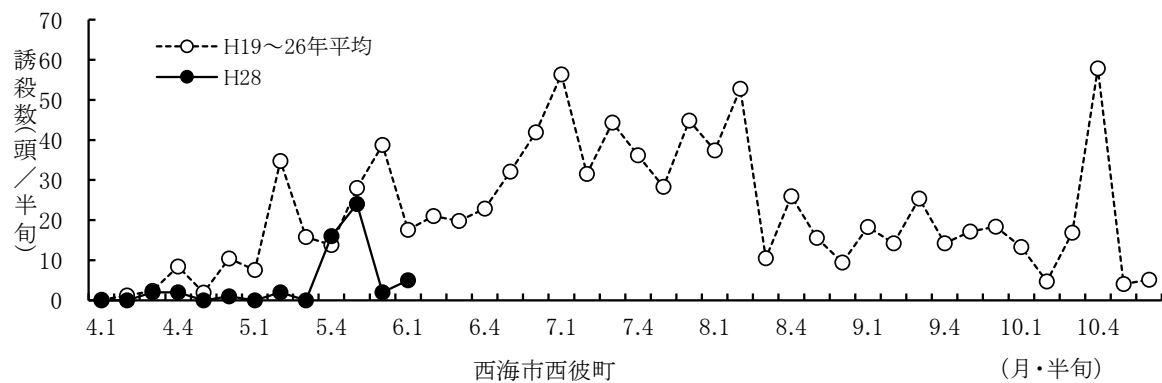
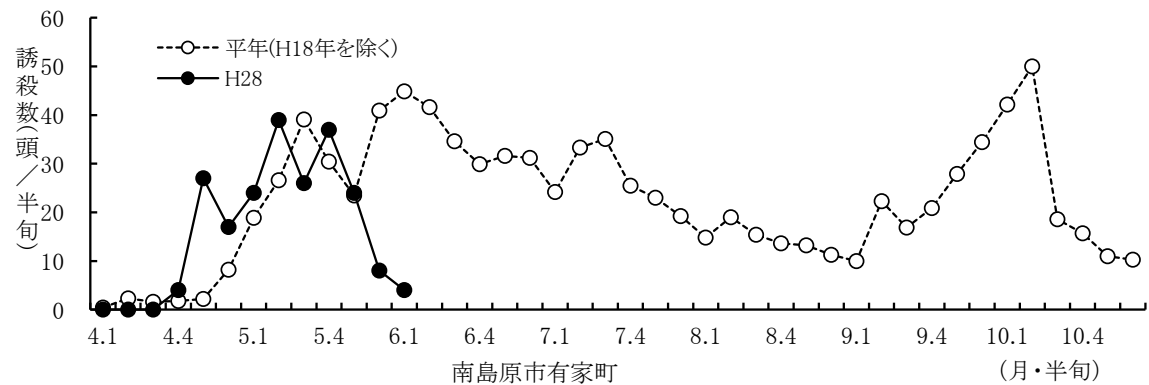
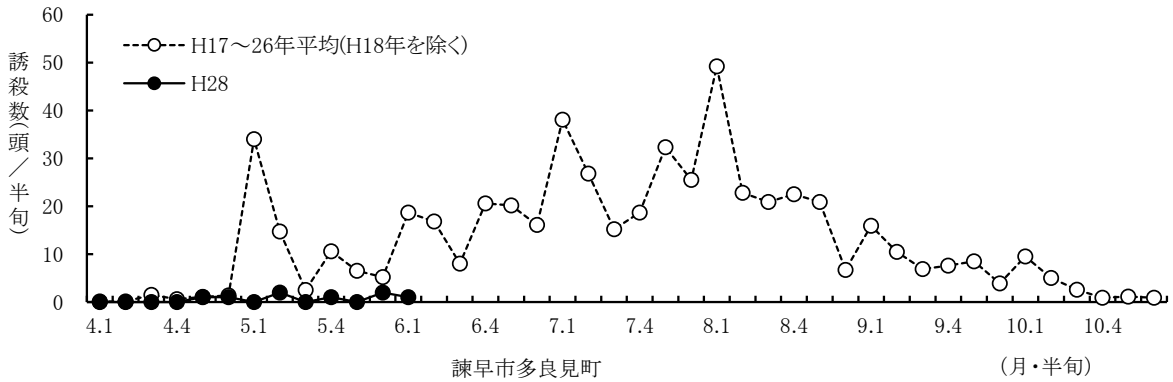
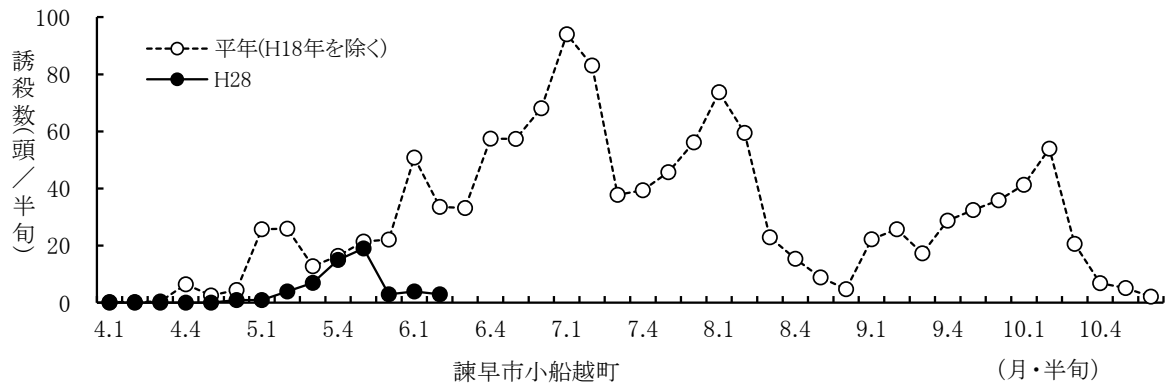


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は6.8枚

(0.8枚)、発生圃場率は55.0%(23.1%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は9.7頭(28.9頭)、発生圃場率は85.0%(89.4%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.5枚(0.0枚)、発生圃場率は25.0%(3.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月2半旬にピークが見られ、ほぼ平年並で推移している(図)。

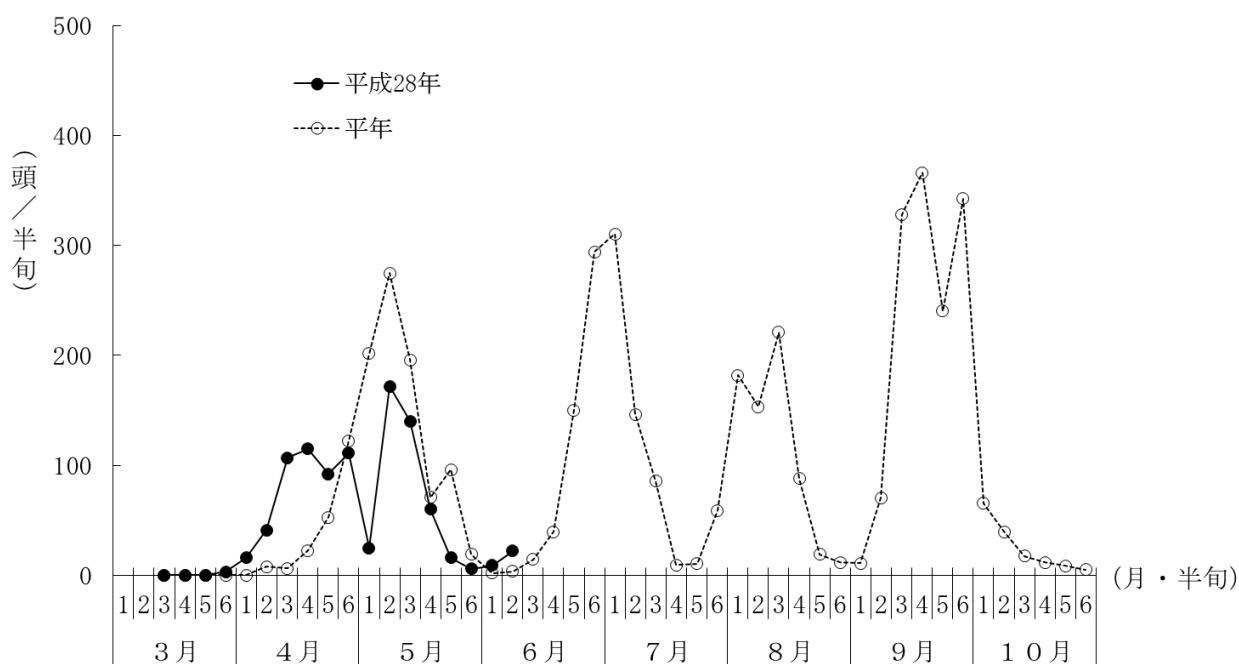


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚(0.0枚)、発生圃場率は10.0%(5.6%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、平年より多く推移している(図)。

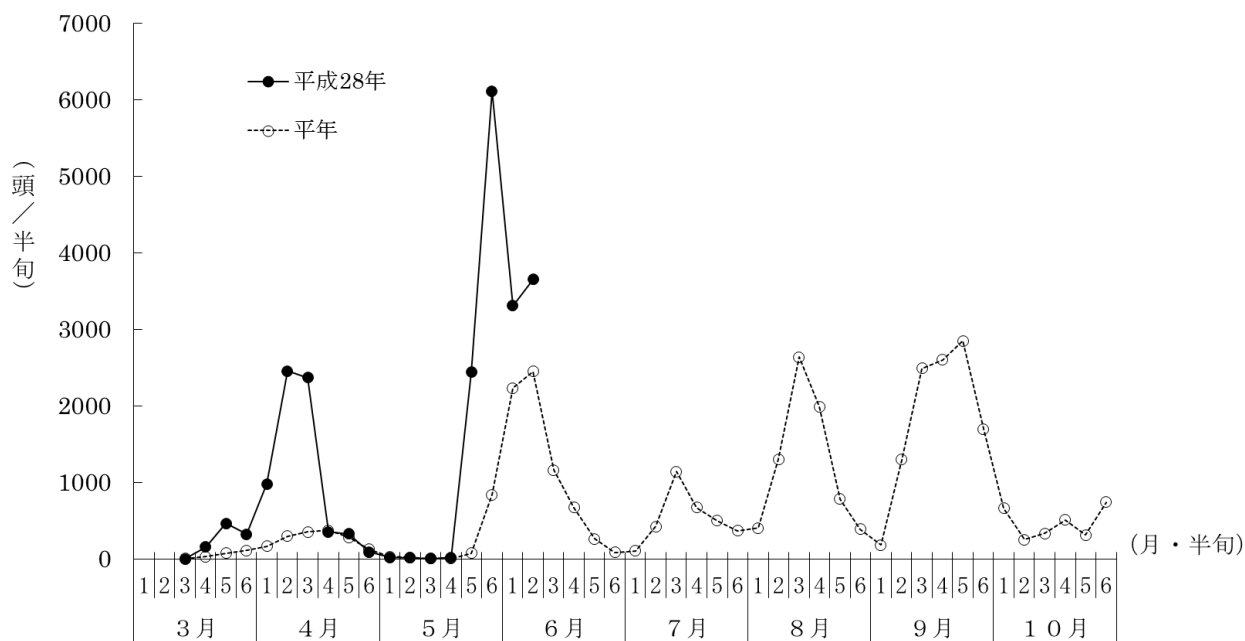


図 チャノホソガの誘殺状況 (東彼杵 : フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は6.4%(1.8%)、発生圃場率は40.0%(20.0%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.4頭(3.4頭)、発生圃場率は45.0%(60.6%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は13.5%(6.5%)、発生圃場率は60.0%(37.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い園では、第2世代の防除を行う。

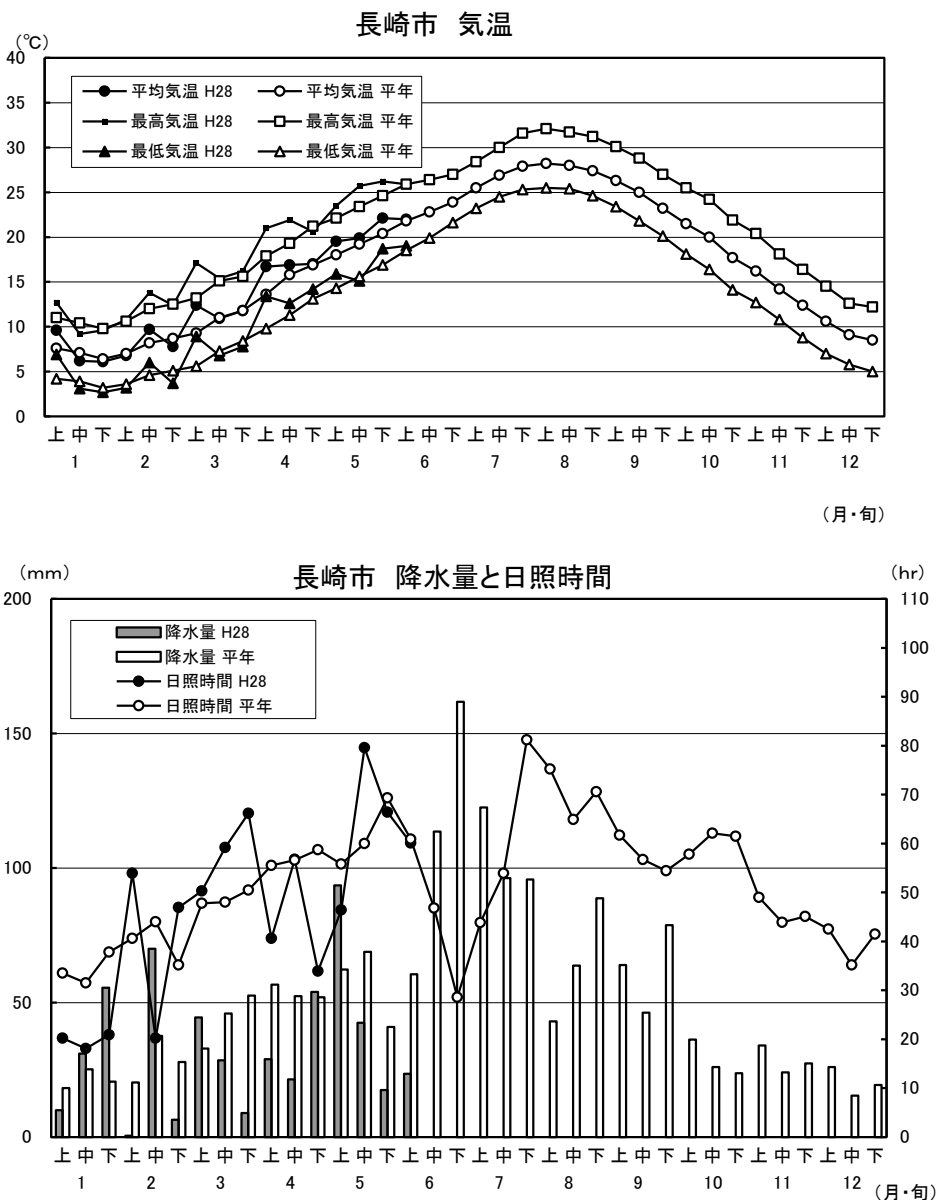
【参考】

気象 (平成28年6月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

平成28年の気象経過 (長崎地方気象台)



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

